

天野先生から学んだこと ～学部の評価を高めるために なすべきこと～

関根 孝道

もと本学部長で本学部の創設と発展に尽力された故天野明弘先生。多くのことを教えていただいた。実務家出身の私には教育者・研究者がどういうものか分からなかった。天野先生はそのあるべき姿を示された。天野先生とはチームを組んで、学部科目の総合政策入門、大学院科目の総合政策研究を分担させてもらった。そこで私は「教育者・研究者」がいかにあるべきか教えていただいた。「学部の評価を高めるには、一つのことしかない。優秀な学生を世に送り出し、教員が研究成果を示すこと」。天野先生は、このご自身のお言葉をみずから実践され、多くの優れた学生を輩出し顕著な研究成果を残された。新入生対象の総合政策入門では、天野先生の「総合政策・入門」(有斐閣アルマ)をテキストとして使用したが、このご著作の原稿は入院時に病床で執筆されたと聞く。療養中にも授業用テキストの原稿を書かれたことに驚かされた。テキストの内容も実に分かりやすく、私自身が総合政策的なアプローチをこの本から学んだ。法学出身の私に社会科学における経済学的重要性を教えたのも天野先生だった。大学院の授業では学問に対する厳しい姿勢を垣間見ることができた。ある時、授業の最終回は教員と学生の質疑応答に当てる予定だったが、学生から質問がなかった。天野先生はしばらく待たれたが、それでも質問は出なかった。天野先生は、「それでは本日の授業は終了とします」と言われて、教室を退室された。私もその後ろ姿を追って教室を出た。時間にして授業開始から5分も経っ

ていなかったと記憶する。「授業のための授業はしない」ことを学んだ。「学部の真の評価は学生と教員の評価に帰着する」。このお言葉を今も噛みしめている。天野先生の残された功績は大きかった。天野先生の志は残された我々が少しでも体現していくしかない。天野先生のご冥福をお祈りしたい。

関根孝道(せきね たかみち 関西学院大学総合政策学部 教授)